

自国第一主義と教育

校長 相川 保 敏



今月20日、アメリカ第47代大統領にトランプ氏が就任しました。初日から、議会の可決を必要とせず発令できる数多くの大統領令に署名しました。これらの多くは、アメリカの経済成長と国際的な競争力を高めることを第一としており、国際社会に動揺を与えています。特に、世界保健機関（WHO）や気候変動対策の枠組みであるパリ協定からの脱退・離脱、移民政策の強化、輸入関税引き上げなど、国際社会に多大な影響を与える問題として毎日のようにニュースに取り上げられています。

これまで日本を含めた多くの国々では、性別、人種、国籍、障害の有無、価値観、宗教など、さまざまな違いを尊重し受け入れる「多様性」、全ての人々が平等な機会を得られるように、不均衡を是正し公平に扱う「公平性」、多様な人々が組織やコミュニティの一員として尊重され、安心して参加できる環境を作る「包摂性」などを大切にしていって方向で動いてきました。今後、トランプ大統領の自国の利益を最優先する自国第一主義の考え方が国際社会に広がり、国際協調や国際的な義務の軽視、さらには社会全体の利益や倫理的な価値観の軽視につながっていかぬか危惧されます。また、アメリカでは近年、大統領が変わるたびに政策が国際協調主義、自国第一主義と何度も交錯しています。アメリカの子どもたちの倫理観や価値観にも少なからず影響を与えていくのではないかと考えます。

日本では、小学校6年生の社会科で、日本の歴史を学んだ後に「グローバル化する世界と日本の役割」という内容を学びます。そこで、「世界の人々の多様性」「異なる文化や習慣の尊重」「諸外国の発展のための援助や協力」について具体的に学んでいきます。そして、教科書の最後の単元で、地球規模で発生している課題（紛争、環境破壊、飢餓、貧困、自然災害、人権など）と解決に向けた取り組みを調べ、自分たちにできることを考えていきます。日本の教育は、バイデン前政権が推進した多様性と包括性を重視し、国際協調・協力を大切にしていって学習を進めていくわけです。しかし、日本でも超大国

アメリカに追従して「自国第一主義」の考え方が広がっていく可能性もあります。例えば、日本が国際協力に充てている政府開発援助（ODA）の2025年度の予算は約5,664億円で、無償資金協力や技術協力など、さまざまな形で世界各国の発展や支援に使われています。これに対して、日本の財政赤字や国債の増加を背景にODA予算を削減して国内の財政健全化を図るべきだという意見があります。また、国内の福祉や教育、インフラ整備、少子高齢化や社会保障費の増加に充てるべきだという主張もあります。他の先進国でも自国を優先する勢力が台頭している中で、日本がトランプ大統領の政策にどの程度歩み寄っていくのか、あるいは国際的な協力関係を強化しグローバルな課題に対処するためのリーダーシップを発揮していくのか、注目するところです。

さて、始業式で児童会役員が今年の抱負を四字熟語で全校の児童に紹介してくれました。その際に、全校児童に「白」「光」を含めた四字熟語を募集しました。「白」は白魔法の白、「光」は光の子の光です。白魔法とは、言葉を魔法に見立て、使うべき言葉を「白魔法」、避けるべき言葉を「黒魔法」とし、他の人に元気を与えたり、仲良くしたりできる、みんなから好かれる言葉を白魔法と呼んでいます。白魔法を教室や学校で使っていけるように1学期から折に触れ話をしています。また、光の子とは、神学者R・ニーバーの著書「光の子と闇の子」の中で記されているもので、自分の利益ばかりを考えて行動する子を「闇の子」、他の人のことを考えて行動できる子を「光の子」と呼んでいます。「闇の子」は、友達を独占しようとしたり、他人に嫉妬したりするようになるので、「光の子」の心で良い人間関係が作っていきけるようにと、2学期から子どもたちに話をしています。

1月末時点で集まった四字熟語は15作品です。今のところ、児童から支持が多かったものを2点紹介します。

・「白優光心（はくゆうこうしん）」

意味－白魔法のようにやさしく、心は光の子に。

・「私友白光（しゆうはっこう）」

意味－私の友だちはみんな白魔法を使える光の子

本校では「自国第一主義」の考えより、「国際協調主義」の考えを大切にしていきます。